



埼玉県農業協同組合中央会会長賞

おいしいお米を食べる幸せ

さいたま市立上大久保中学校 二年

白坂 怜しらかさ れい

夏休みに入り、宿題や課題テストの勉強をしていた私は、外の空気が吸いたくなくなり、気分転換に、自転車で出かけることにした。夕方、自転車に乗るのは久しぶりだったので、とても気持ち良かった。しばらく走ると、周りの景色が変わり、草の匂いがしてきた。一直線に延びる道を走り抜け、土手に向かって緩やかなカーブの先に続く坂道を、私は一気に登り切った。そこには、息を呑むほどきれいな田園風景が広がっていた。存分に水を吸い、日光を十分に浴びて、伸び伸びと育った緑色の稲が風にゆれ、波のように見えた。私は、この景色を見て、祖父を思い出した。

祖父は、離れて暮らす私たち家族のために、一、二ヶ月に一度、米を送ってくれている。それは、母が学生の頃からずっと、続けてくれている。以前は、農家から買った米だったが、ここ数年は同じ買った米は米でも、祖父が手伝って収穫した米だ。祖父は定年退職後、知り合いから米作りの手伝いを頼まれ、お役に立てるなら、と五、六年前から手伝っている。秋に収穫した米を一年分まとめて買い、私の家へ送る直前に精米してくれている。三十キロ以上もある米袋を一人で持ち運びするのは本当に大変だと思う。また、私たち家族の一年分の米を買う費用を用意することも大変なことだと思う。買い物に行った時、売られている米の値段を見て驚いたことがある。でも祖父は、米が重くて大変だ、お金がかかる、などとは一切言わず、たった一言、

「お米送ったよ。しっかり食べなさい。」
と、いつも電話をかけてきて言う。私はそんな祖父を本当にすごいと思っ

ている。私たち家族が好きなのは白いご飯を食べることができるとは、祖父のおかげだ。私は、祖父からの米を、自分で炊いて、よく味わって食べてみようと思った。祖父の優しさが詰まった米をおいしく食べて、感謝の気持ちを表したいと思った。急いで家に帰り、まずは米の研ぎ方・炊き方を調べ、準備することにした。

いろいろ調べてみると、米は一番最初に浸ける水を最も吸収し、その水が炊き上がりの味を左右する、ということが分かった。私は店へ行き、自分がいいと思ったミネラルウォーターを選んで、最初に浸ける水と炊く時に加える水に使った。米を研ぐ時は、米の栄養やおいしさを失くさないよう、研ぎ過ぎに気を付けた。私は、真剣に一つ一つ丁寧に仕事をした。甘みと旨みと粘りがあってツヤがいい、と祖父が言っていたことを思い出して、そんなふうにできていることを願って、炊き上がりを楽しみに待った。そしてついに炊き上がった。蓋を開けた瞬間に、米の香りがふわあつと広がった。こんなに米の香りを感じたのは初めてだった。一粒一粒が真っ白く輝いている。私は優しくかき混ぜ、茶碗によそって一口食べた。

「おいしい。」

自然に言葉が口から出た。いつもより、米の食感がはつきりしていて、甘みがあり、今まで自分が炊いたご飯の中で一番おいしかった。

「おかずなしでも、ご飯だけで食べられる。」

と、父と母が喜んで食べているのを見て、私は嬉しかった。祖父にも食べてもらいたいと思った。

私は、なぜ、おいしくご飯を炊くことができたのかがわかった。それは、水や研ぎ方を工夫したこともあるが、おいしいご飯を炊きたい、という一心で、心を込めて炊いたからだと思う。そして、祖父や農家の人たちが、一生けん命その米を作ってくれたからだと思う。おいしい米を毎日食べることができている私は、本当に幸せだと思った。祖父や、米作りをしている農家の人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも心を込めてご飯を炊き、最後の一粒まで、大切に食べようと思う。